武満徹　音楽祭開催

武満徹没後20年記念
武満徹
音楽祭
in 福岡
2016.6.10–8.4
TAKEMITSU FESTIVAL in FUKUOKA
20世紀を代表する世界的作曲家・武満徹の九州で初めてのフェスティバル。
2016年6月10日から8月4日まで隔週ごと、5回にわたり
講演と演奏、歌、映画、オーケストラ演奏が行われます。
（詳しくは中面をご覧ください）
推薦
谷川俊太郎、篠田正浩
武満徹没後20年にあたり、
福岡で彼の音楽祭が開かれることを
心から嬉しく思います。
主催：武満徹の小宇宙企画の会
協力：大原哲夫編集室

音は私をつらぬいて
世界に輪のようにつづいている。
武満徹
"Sounds thread their way through me,
and then out into the world, in uninterrupted loops."
by Toru Takemitsu
photo ©1967 Charles Gagnon

武満の遺した音楽に
彼が世界に語りかけた言葉を、
人類に遺した言葉を聴く。
民族を越え、時代を超えて、
私たちは武満の遺した響きに耳を傾ける。

The grace of Takemitsu's music was always echoed in the grace of his words. Both will undoubtedly continue to echo through our new century.

20世紀を代表する世界的音楽家・武満徹

1930年10月8日　東京都、本郷1丁目に生まれる。
1945年15歳の時、軍歌ばかり耳につく戦争末期に勤労動員先で聞いたシャンソン、〈聞かせてよ、愛の言葉を〉に衝撃を受け、音楽を一生の仕事にしようと決意。戦後、ほとんど独学で作曲を習得する。
1950年20歳、詩人・美術評論家の瀧口修造と出会う。新作曲派協会を経て実験工房の時代へ。結核を病むが、ラジオドラマ、演劇のための音楽、映画音楽に意欲的に取り組む。
1957年27歳、〈弦楽のためのレクイエム〉をストラヴィンスキーが、1961年には〈樹の曲〉をコープランドが絶賛。また、この頃から映画音楽作曲家としても高い評価を得、数々の賞を受賞。
1967年37歳、カーネギーホールで〈ノヴェンバー・ステップス〉演奏。映画音楽、コンサート作品とともに世界的評価を得る。その後カナダ、フランス、イギリス、オランダなどで次々に作品が紹介される。
1970年EXPO'70鉄鋼館の音楽監督に。「今日の音楽」を企画、以後20年続く。プロデューサーとしても活躍。海外からの委嘱、海外の音楽祭からの招請が増える。国際作曲家委嘱シリーズ監修者に就任。武満は世界的評価が定まっても安住することがなかった。東西を超えた存在として世界の音楽会に要請されて各国を飛び回る日々が続く。
1995年　65歳、東京オペラシティー芸術監督に就任。テーマは「祈り、平和、希望」。
1996年2月20日、癌のため死去。享年65歳だった。 2004年には全作品をCDに収録した『武満徹全集』全5巻が刊行された。

第1回 お話と演奏のコラボレーション
武満徹と美術

6月10日(金)

会場	ギャラリーモリタ
開場	18時30分　開演　19時
定員	40名（先着順締め切り）
入場料	3,500円

講演　大原哲夫（エディター、『武満徹全集』編集長）
演奏　谷辺昌央（ギタリスト）

［演奏曲］ギター演奏曲
フォリオス
エキノクス（ミロの作品にヒントを得た曲）
すべては薄明のなかで（クレーの作品にヒントを得た曲）
森の中で（遺作）など、武満徹ギター独奏曲全曲ほか

僕は音楽を考える時も、視覚的に考えることが多い。いい絵を見たときに、色彩のハーモニーのようなものが自分の中で響きとして感じられる。……武満徹

武満徹は眼の人でもあった……。武満と美術。
けやき通りの画廊が、武満の色に染まる。
聴きのがせない！　海外でも絶賛のギタリスト谷辺昌央。

武満徹は20代で当時まだ日本ではほとんど知られていなかったパウル・クレーの評論を書いたこともありました。武満徹の作品には、ルドン、ミロ、クレーなどの絵画や彫刻などの美術作品に啓発され、あるいはモチーフにしたものが多くあります。また画家、彫刻家たちと広く交友しています。武満作品における音楽と美術の相互の関連について、ギターの演奏を交えながらお話します。（大原）

Tetsuo O'hara

大原哲夫 おおはら・てつお
（エディター、『武満徹全集』編集長）
1947年福岡県門司市生まれ。早稲田大学第一文学部史学科卒業、美術編集者としてスタート。後に小学館版『モーツァルト全集』『バッハ全集』『武満徹全集』『林光の音楽』等の音楽全集を企画、編集長を務める。その他企画・編集した美術書・音楽書など100冊を超える。2008年に大原哲夫編集室を開設。企画・編集・執筆活動を続ける。また「シリーズ・武満徹の音楽」などのコンサートをプロデュース、その一方で造形作品・絵画を発表する。音楽と美術に差はないがモットー。著書に『武満徹を語る15の証言』（小学館）『チェリスト、青木十良』『モーツアルト・伝説の録音』全3巻（飛鳥新社）。
photo © Chizuka Watanabe

Masao Tanibe

谷辺昌央 たにべ・まさお
（ギタリスト）
名古屋生まれ。東京大学在学中に東京国際ギターコンクールに首席入賞。1999年よりドイツ、ケルン音楽大学留学、首席卒業。ノルバ・カエサリーナ国際ギターコンクールなどヨーロッパの数々の国際コンクールで優勝。2005年ワシントン、ケネディーセンターでアメリカ・デビュー。バッファロー・フィルと共演では、聴衆2000人総立ちの大成功、ドイツ、スペイン、ブラジルなどのオーケストラと共演。2011年より日本での活動を本格化。ドイツMDGより《日本人作曲家によるギター協奏曲集》（武満徹、細川俊夫、林光）をCD世界同時リリース。2013年名古屋音楽ペンクラブ賞、2015年芸術創造賞受賞。

第2回 ピアノとうたのコラボレーション
武満徹のうた

6月24日(金)

会場	ギャラリーモリタ
開場	18時30分　開演　19時
定員	40名（先着順締め切り）
入場料	3,500円

ピアノ　谷川賢作（作曲/編曲、ピアノ）
うた　高瀬麻里子 "まこりん makoring"（ヴォーカル）

［演奏曲］
うたうだけ
見えないこども
昨日のしみ
ぽつねん
翼
小さな空
死んだ男ののこしたものは
ほかに 谷川俊太郎作詞と賢作作曲の
「さようなら」「ぴあの」「とおく」「私たちの星」「ほほえみ」

「なぜクラシックの、しかもこむずかしい現代音楽を書いている作曲家がこんなアルバムを作ったりするのか不思議に思われるだろう。私にとってこうした営みは、「自由」への査証を得るためのもので、精神を固く閉ざされたものにせず、いつも柔軟で開かれたものにしておきたいという希いに他ならない。……武満徹

ポップスで聴く、武満徹の"うた"。
まこりんの歌で聴くと、詩が活字で読むよりも
ずっと深く心に届くのに驚く。……谷川俊太郎

Kensaku Tanikawa

谷川賢作 たにかわ・けんさく
（作曲/編曲、ピアノ）
1960年東京生まれ。ジャズピアノを佐藤允彦に師事。演奏家として、現代詩をうたうバンド「DiVa」ハーモニカ奏者絶木力とのユニット「パリャーソ」、また父である詩人の谷川俊太郎と朗読と音楽のコンサートを全国各地で開催。80年代半ばより作・編曲の仕事をはじめ、映画「四十七人の刺客」NHK「その時歴史が動いた」テーマ曲等。88、95、97年に日本アカデミー賞優秀音楽賞受賞。近年は作曲、演奏活動のほか各地ホール、団体の音楽監督、音楽プロデュース、芸術アドバイザーと多彩な活躍を続ける。最新CDはパリャーソ・ウィズ・フレンズ「セレッソ」（JMCK-3009）、「詩は歌に恋をする－DiVa　BEST」（COCQ-84618）、谷川賢作ピアノソロvol.4（TRBR-0014）。
photo © 片岡隆太

makoring

All in Twilight
クレー作　1932年

エキノクス
ミロ作　1967年

閉じた眼
ルドン作　1890年

高瀬麻里子"まこりん"
（ヴォーカル）

詩人・谷川俊太郎、谷川賢作（p）が大坪寛彦（b）と共に結成した、現代詩をうたうバンド「DiVa」のヴォーカル。代表曲「さようなら」は、矢野顕子を初め多くのアーティストがカバー。子供向けのオムニバスアルバムなどにも参加。「紺野美沙子の朗読座」映画「沈まぬ太陽」「ニュースJAPAN」のオープニング・テーマ曲、「あまちゃん」などの劇場音楽やCMなどにも起用される。自ら率いるハモリ女子3楽坊「トランスバランス」ではアレンジとコーラスを担当。アカペラや朗読で綴るソロライブ、声優、俳優、モダンダンスなど活動は多岐に渡る。

photo © FUKAHORI mizuho

第3回　お話と演奏のコラボレーション

武満徹と自然

7月8日（金）

会場	ギャラリーモリタ
開場	18時30分　開演　19時
定員	40名（先着順締め切り）
入場料	3,500円

講演　小沼純一（音楽評論）
演奏　若林かをり（フルーティスト）

［演奏曲］
ヴォイス、巡り、エアなどを予定

今宵、武満の音楽創造の謎が解ける！
作曲の創作原理とは？
気鋭の音楽評論家とフルーティストの競演。

創作の原理と自然とのつながり……。

武満徹の音楽作品には、木や星、場所、季節、雨や風、といった自然とのつながりを喚起するタイトルがつけられています。そこには、ただタイトルのみではない、作曲家にとっての創作原理と自然とのつながりがみえてくるのではないでしょうか。タイトル＝ことばは、しかし、音楽のイメージを限定するのではなく、作曲家が音楽を発想するものとしてはたらいています。フルートの実演とともに、息、空間、時間といった具体的な側面にふれながら、お話できればと思います。（小沼）

Junichi Konuma
photo © Atsuko Takagi

小沼純一　こぬま・じゅんいち
（音楽評論）

1959年東京生まれ。学習院大学フランス文学科卒業。音楽を中心にしながら、文学、映画など他分野と音とのかかわりを探る批評を展開。現在、早稲田大学文学学術院教授。音楽・文芸批評家。その他、諸々の委員等もつとめる。著書に『武満徹 音・ことば・イメージ』『ミニマル・ミュージックその展開と思考』『魅せられた身体』『音楽に自然を聴く』他多数。詩集に『しあわせ』『サイゴンのシド・チャリシー』ほか。編著に『武満徹エッセイ選』『高橋悠治対談選』『ジョン・ケージ著作選』『柴田南雄著作集』ほか。2015-6年にはコンサート『村上春樹を「聴く」』の監修。NHK「スコラ　坂本龍一音楽の学校」のゲスト講師で出演。

Kaori Wakabayashi

若林かをり　わかばやし・かをり
（フルーティスト）

京都に生まれる。東京藝術大学音楽学部卒業。ストラスブール音楽院、ルガーノ音楽院を最優秀の成績で修了。現代音楽演奏コンクール"競楽 X"第2位入賞。平成27年度滋賀県文化奨励賞受賞。NHK-FM「名曲リサイタル」出演。フランス、ドイツでリサイタルを開催。ヨーロッパやアメリカの音楽祭などでも演奏を行う。2015年、全曲現代作品によるリサイタル『フルーティッシモ～フルートソロの可能性～』を始動し、本年11月5日（土）には近江楽堂（東京オペラシティ）で、武満徹のフルート作品に焦点をあてた『フルーティッシモ（vol.3）』開催予定している。

僕はたくさんの樹々の中に1つの音を求める。自分の音楽として規定された音と、そうでない周囲の自然の音が同じ形の音で存在していて欲しい。……武満徹

photo ©1967 Charles Gagnon